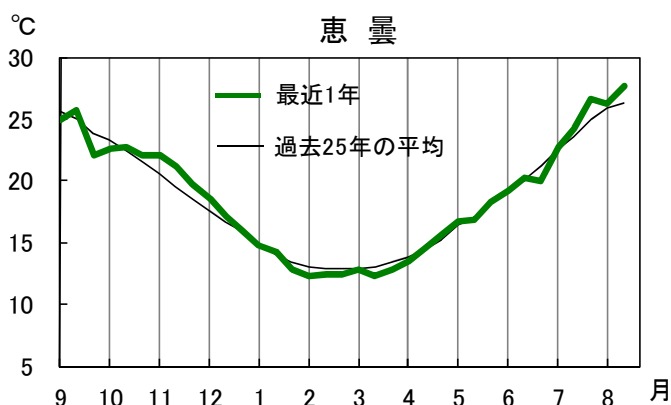
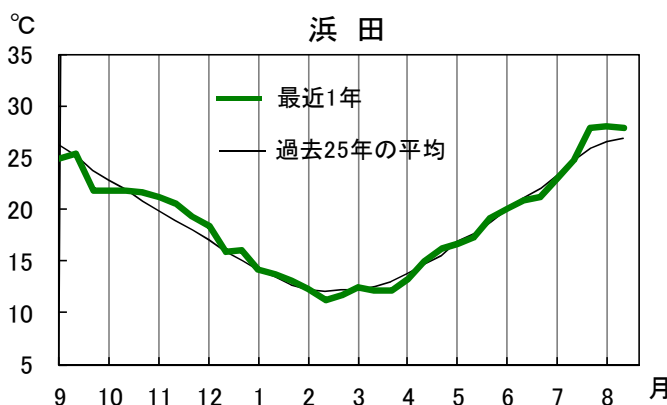




《7～8月の海況》

7月	月平均	平年差	評価
浜田	25.3℃	+0.7℃	やや高め
恵曇	24.6℃	+0.8℃	やや高め

沿岸定地水温は、浜田・恵曇地区とも、7月は中旬までは「平年並み」でしたが、下旬は「やや高め」で推移しました。8月に入り中旬時点で両地区とも「平年並み～やや高め」で経過しています。



《7月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではマアジ、サバ類、ケンサキイカ主体の漁況で、1ヶ統1航海当りの漁獲量は平年を上回りました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではマアジ、サバ類主体の漁況で、西郷地区においては1ヶ統1航海当りの漁獲量は平年をやや下回ったものの、浦郷地区においては平年を大きく上回りました。この時期の主体であるマアジの漁獲量は、どの地区においても平年を下回ったものの、サバ類の漁獲量は平年を上回りました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではケンサキイカ主体（全体の92%）の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は137kgで平年並みでした。西郷地区（属人5トン以上）でもケンサキイカ主体（全体のほぼ100%）の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は46kgで平年を下回りました。

【バイかご漁業】

石見地区の総漁獲量は32.7トンで、前年を20%上回りましたが、平年の8割の水揚げに止まりました。漁獲対象であるエッチェウバイは銘柄「大」が漁獲の主体となっており、漁獲量は28.0トン、1隻1航海あたりの漁獲量は573kgで、前年を17%、平年を13%上回りました。

【シイラまき網漁業】

6月から始まった石見地区のシイラまき網漁業はシイラ主体の漁況で、1隻1航海当たりの総漁獲量は832kgと平年の約6割となりました。主体となるシイラの漁獲量は平年の約5割となりましたが、例年シイラと共に漁獲されるヒラマサは平年並みとなりました。

【定置網漁業】

石見地区ではマアジ、ケンサキイカ主体の漁況で、1統当りの漁獲量はマアジが平年の5割であったものの、ケンサキイカが1.8倍となり、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。出雲地区ではホソトビウオ、マアジ主体の漁況で、1統当りの漁獲量はホソトビウオが平年の2倍であったものの、マアジが7割にとどまり、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。隠岐地区ではマアジ、ケンサキイカ主体の漁況で、1統当りの漁獲量はマアジが平年の4割、ケンサキイカは平年並みとなり、全統の総漁獲量は平年を下回りました。

【釣・縄】

石見地区ではケンサキイカが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は19kgで平年を上回りました。出雲地区ではケンサキイカ、マアジが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は17kgで平年を下回りました。隠岐地区ではケンサキイカ、カサゴ・メバル類、キダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの総漁獲量は20kgで平年を下回りました。

【平成 24 年 7 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
まき網 (中型・大 中型)	浜田	マアジ、サバ類、ケンサキイカ	534トン	146%	150%	11.6トン	102%	123%	◎
	西郷	マアジ	1,821トン	82%	60%	21.4トン	85%	70%	▲
	浦郷	サバ、マアジ、ウルメイワシ	1,795トン	100%	88%	27.2トン	99%	102%	○
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ	52トン	482%	162%	137 kg	157%	105%	○
	西郷	ケンサキイカ	9トン	115%	74%	46 kg	67%	38%	▲
バイかご	大田管内	エッチュウバイ	32.7トン	120%	82%	667kg	108%	107%	◎
シイラまき	和江	シイラ	23.9トン	155%	36%	771 kg	200%	82%	○
定置網 (大型)	浜田	マアジ、ケンサキイカ	25.7トン	76%	77%	1.0トン	125%	143%	◎
	美保関	ホソビウオ	104トン	102%	66%	1.0トン	93%	66%	▲
	浦郷	マアジ	21.5トン	37%	47%	768 kg	38%	48%	▲
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ、メダイ	19トン	127%	147%	27 kg	111%	111%	○
	大社	ケンサキイカ、サワラ類、マアジ	7トン	91%	122%	15 kg	79%	106%	○
	西郷	カサゴ・メバル類、ケンサキイカ、メダイ	11トン	82%	74%	23 kg	88%	74%	▲

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは平年比を－とした

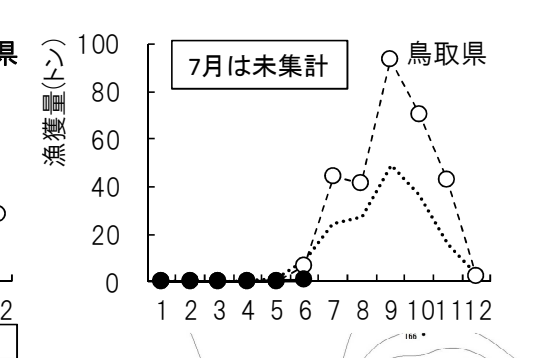
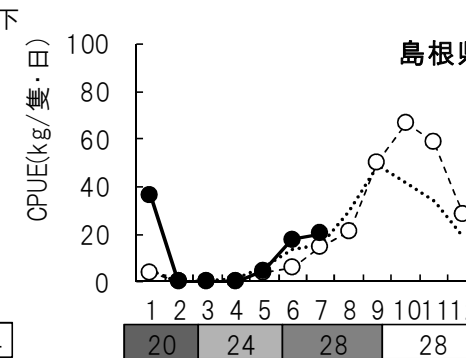
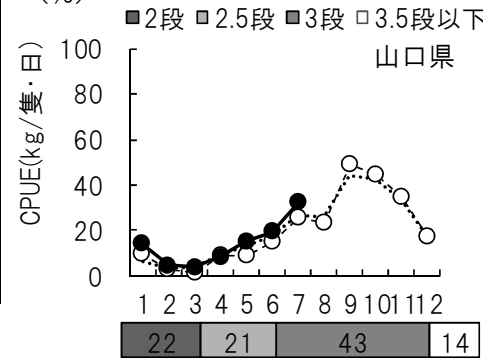
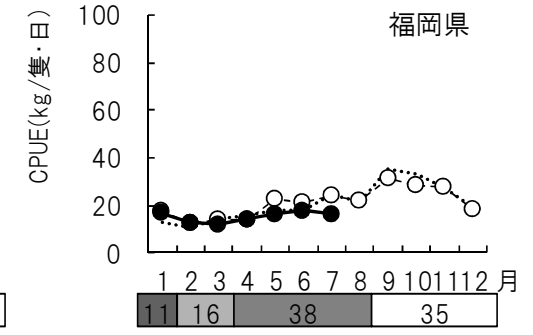
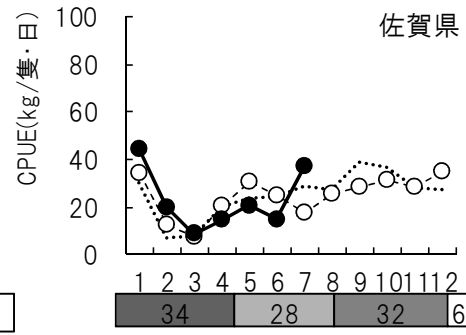
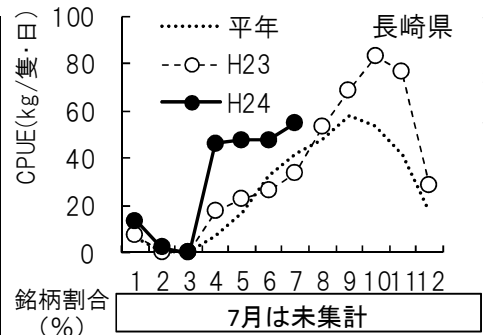
【ケンサキイカ情報】

長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

I:7月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

鳥取県	7月の漁獲量は未集計ですが、8月に入り漁獲は増加しつつあるようです。
島根県	主要7港の水揚量は108トンで、前年・平年を上回りました(前年比263%、平年比226%)。
山口県	漁獲量は前年比145%、平年比113%で、前年を大きく上回り平年並みでした。
福岡県	漁獲量は前年比67%、平年比67%と、前年・平年を下回りました。(出漁隻数は平年並)
佐賀県	漁獲量は前年比288%、平年比111%で、前年を大きく上回り平年並みでした。
長崎県	漁獲量は前年(前年比118%)、平年(平年比99.8%)並みでした。



※平年は過去5年(H19~H23)の平均値

II:8月上旬の底層水温

鳥取県	100m深の底層水温は16℃以上ありました。
島根県	陸棚上の底層水温は、温泉津沖は2~6℃でやや低め~平年並み、高山沖は5~20℃で平年並み~かなり高めでした。
山口県	8~21℃を示し、沿岸域ではやや低め、沖合冷水域では甚だ低めでした。
福岡県	沿岸域の水温は20~23℃台と平年並み、沖合域の水温は15~18℃台とやや低め~平年並みとなっています。
佐賀県	対馬東水道の底層水温は、15.0~20.5℃で平年並み~やや低め、壱岐水道の底層水温は21.0~23.7℃で平年並み~かなり低めとなりました。
長崎県	観測データはありません。

